

幼稚園・保育園に通わせる保護者の動機についての研究

(—森のようちえんと一般の園を比較して—)

小原 実桜 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 中野 友博

キーワード：森のようちえん、保護者、動機

1. 緒言

近年では、都市化や少子化が進み子供が犠牲になる事件が多くなり、子供が外で元気に遊んでいる姿が見られなくなっている。また「保育園落ちた、日本死ね」という言葉が有名になり、待機児童が多く保育園にも幼稚園にも入園できない子供が多い。このような中で、現在森のようちえんが注目を浴びている。一般の園との一番の違いは、自然の中で1日を過ごす点である。天気に関係なく、1年中野外で活動を行うため四季を感じ心と体の成長に刺激を受ける。よって、たくましい心と体が育まれる。このようなことから、本研究では、幼稚園・保育園に通わせる動機を調べ、森のようちえんの保護者と比較し、森のようちえんの認知度を明らかにする事を目的とする。

2. 研究方法

1) 対象者

対象者は、岡山県S森のようちえんと滋賀県E森のようちえんの保護者22名、福井県子ども園の保護者20名、滋賀県公立幼稚園の保護者40名の計82名にアンケート調査を依頼し、そのうちアンケート用紙が回収できた一般園保護者45名、森のようちえん保護者22名の計67名を対象とした。

2) 調査内容

保育園・幼稚園に通わせる動機について「さいたま市幼児教育のあり方に関するアンケート調査」を参考に筆者が独自に選択式のアンケート用紙を作成した。また一般の園に通わせている保護者には、森のようちえんを知っているか、なぜ通園させなかったのか記述式の項目を作成した。

3. 結果と考察

1) 園に通わせる理由

幼稚園に通わせている保護者は、幼稚園教育を受けさせたいという意見が多く、保育園は保護者が働くためであった。しかし、森のようちえんの保護者は森の中での教育、自然との関わり、人間性を高めるため通わせていた。

2) 就園している園に決めた理由

一般の園で多かったのは、自宅から近いという意見が多かったが、森のようちえんの保護者は、保育理念に共感し自宅から遠くても通わせていることが分かった。

3) 園に望むことについて

園に望むことについて大きく変化の見られた項目の比較は以下ようになった。

表1 園に望むことについての比較

	(n=22)		(n=45)	
	森のようちえん	%	一般の園(件)	%
入園料・保育料を安くしてほしい	20	38.5	25	24.0
預かる時間を長くしてほしい	11	21.2	16	15.4
保護者の意見を取り入れてほしい	5	9.6	14	13.5
保護者の負担を減らしてほしい	4	7.7	11	10.6
土日も開園してほしい	2	3.8	23	22.1

森のようちえんに通わせている保護者の22人中20人の約90%が保育料を安くして欲しいと望んでいる。しかし、一般の園では土日保育を行って欲しいが45人中23人であったが森のようちえんは22人中2人であった。

4) 森のようちえんの認知度

一般の園の保護者の、認知度は45人中8人であり18%であった。通わせなかった理由として、遠いから、保育料が高いであった。認識されていない理由として、特に園舎を持たないため、保育を行っていると思われていないと考える。

4. まとめ

森のようちえんに通わせている保護者は、自己肯定感や自主性などの人間性を高めてほしいため通わせている。また一般の園に通わせている保護者の森のようちえんの認知度はまだまだ低く、認知度を上げなければならないと思った。

引用・参考文献

森のようちえん まるとんぼうホームページ

<http://marutanbou.org/about/> (2017/12/12閲覧)

上野恵子 (2010) 文献の動向から見た育児不安時代の変遷, 西南女学院大学紀要, 14, pp185-195